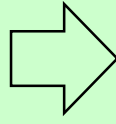


畑地かんがいによる沖縄伝統野菜「とうがん」の生産

経営体の概要

経営開始当初（平成24年）
 基幹作物：（露地）さとうきび 0.19ha
 （露地）とうがん 0.36ha
 経営面積：0.55ha
 （うち畑かん未整備0.55ha）



現在（令和元年）
 基幹作物：（露地）さとうきび 0.2ha
 （露地）とうがん 1.2ha
 （施設）とうがん 0.1ha
 経営面積：1.5ha
 （うち畑かん整備済0.8ha）

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体の経営者は、沖縄県内では伊江島で初めて栽培されたとされる伝統野菜のとうがんを後世に残していきたいとの思いから、父親の後を継いで平成24年に就農している。水分を多く含むとうがんは定植から収穫までかんがい用水を多く使うことから、効率的なかん水が行える農地が求められる。本経営体は、団体営事業により平成22年に畑地かんがい施設が整備されたほ場を平成29年に借りて、その後徐々に生産面積を拡大している。また、自己資金により施設（ハウス）の面積も徐々に拡大しつつ、露地とハウスで異なる品種を生産することにより、収穫期間の長期化（4ヶ月→約半年）を実現しており、経営の安定化にも繋げている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

伊江島で古くから栽培されている在来品種は露地で生産しており、ほ場周りにソルゴーを植えたり、パイプネットを張り巡らせたりする等の防風対策を行うことで、玉の肥大や果皮の傷・擦れ発生の防止に努めている。



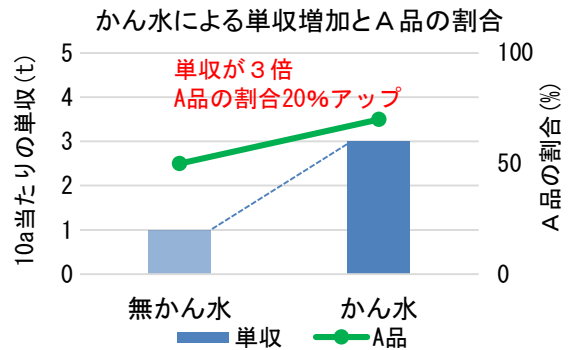
畑地かんがい整備されたほ場（パイプネットによる防風対策）



肥大したとうがんの栽培状況

②単収・品質の向上

畑地かんがい施設が整備されたほ場では、点滴チューブからのかん水や防風対策等により、単収が1t/10aから3t/10aに増加するとともに、品質もA品の割合が50%から70%へと向上している。



事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：伊江村
 受益面積：668ha
 事業期間：平成16年度～29年度
 事業目的：畑地かんがい、用水改良
 主要工事：地上ダム 1箇所
 ファームポンド 2箇所
 揚水機場 2箇所
 用水路延長 9.0km
 中央管理所 一式

位置図（沖縄県）



<局問い合わせ先>

沖縄総合事務局
 農村振興課 広域調査係
 電話：098-866-1652
 （内線：83342）

（令和元年調査時点）